

ウミガメの授業

大丸小学校では、長年ウミガメの保護活動に取り組んでいます。

4年生になると、総合的学習「わくわく」の授業でウミガメのことについて学習します。

これまで、ウミガメ保護監視員の大和隆信さんに協力をお願い、学習会・ふ化・放流活動を行なってきました。

7月に大和さんが急遽されたことから、共に活動していた下野明文さんがその後を引き継ぎ、横瀬海岸に産卵した卵100個を同月16日（金）に同小へ届けました。

早速、防護ネットのついた専用ふ化場に持っていき、温度が安定しているといわれる約60cmの深さに埋めました。

毎日、児童たちは、天気、地中温度、気温、測定時間を日記につけ観察を続けました。

産卵から48日目にあたる9月2日（木）、18匹の子ガメが生まれました。

「ふ化した子ガメは、1匹だけでは、穴からでられない。出るときは、みんなで協力しあう。ひとも動物も協力しあうことが大切」と担任の別府佐夜子先生は、昨年の活動で大和さんに教えてもらった印象的な言葉を話していました。

児童たちは、バケツに子ガメをいれ、横瀬海岸に運び、放流しました。懸命に沖を目指す子ガメに「がんばれ」「帰って来てね」と声をかけて、安全を祈りました。

大和さんの40年に及ぶ活動は、大丸小学校の子ども達に永遠に引き継がれていきます。



ウミガメの保護活動

県では、一体となつてウミガメを保護するため、昭和63年に『鹿児島県ウミガメ保護条例』を制定し、各種保護対策を実施しています。

本町でも2名の保護監視員さんをお願いし保護パトロールを行なっています。

5月中旬から8月中旬までの毎日、早朝に海岸をパトロールして上陸や産卵の有無などを確認したり、産卵場所に波がかかる恐れがある場合は、移設するなどして保護しています。

このほかにも、漂着死体や標識タグをつけたウミガメを発見したときの報告などがあります。

【ウミガメ保護監視員】

- 下益丸 春田清信さん
- 新地 下野明文さん